

## 環境・健康・安全に対する取り組み

東京エレクトロンは、人々の健康と安全を最優先し、地球環境の保全に配慮することを事業活動を行う企業としての重要な使命と考えています。

### 基本ポリシー

東京エレクトロンでは、当社の継続的な成長と社会の持続的な発展のために、環境・健康・安全に対する取り組みを最重要経営課題の一つと位置付けています。当社が携わるあらゆる分野で環境負荷を低減することに、また、当社やお客さまの施設内における安全性について絶対の信頼を確保することに積極的に取り組んでいます。

こうした取り組み姿勢を明確にするため、1998年に「環境に関する基本理念/方針」および「安全・健康に関する基本理念/方針」を制定いたしました。このうち前者は、2006年5月、グループの方向性や考え方をさらに明確にするために、見直しを行い、改定しました。今回の改定では、当社グループ製品に関する環境対応ロードマップを明確にして製品開発を進め、設計・製造・使用時に検証していくことや、環境報告書等を通じてステークホルダーの皆さまに公表することを明確にしました。

### EHSマネジメント

東京エレクトロンでは、1997年より主に製造系の各事業所を中心にISO14001に基づく環境管理システムを構築し、認証を取得しています。

### 環境会計の導入

東京エレクトロンは、企業活動のうち環境保全に関わるコストを定量的に把握し、企業活動の指針として活用するために「環境会計制度」を導入しています。2007年3月期の結果については、2007年9月に発行予定の「東京エレクトロン環境・社会報告書2007」をご覧ください。

### 製品における環境負荷低減への取り組み

#### 先取りした環境配慮設計に向けて

当社の改訂された環境理念・方針でより明確に謳われているように、環境配慮設計の促進は極めて重要なものと考えています。特に装置の省エネルギー化の促進や、規制含有化学物質の削減・代替化を、優先的に取り組むべき課題と位置付けています。

#### 1. 装置使用時における省エネルギー化への取り組み

東京エレクトロンの製品の多くは、クリーンルーム内で製造・使用されるものであることから、装置からクリーンルーム全体まで含めた多角的な省エネルギーへのアプローチを進めています。具体的には次の5つがあります。

1. 装置本体のエネルギー使用量低減
2. 周辺機器のエネルギー使用量低減
3. 装置の省エネルギー運用
4. クリーンルームのエネルギー使用量削減
5. クリーンルームの省エネルギーマネジメント(計画運転、適正運用など)

なお、半導体業界の世界標準として「SEMI S23半導体製造装置で使用されるエネルギー、ユーティリティ、および材料の保全のためのガイド」が制定されており、当社の製品群もこのガイドラインに基づき各装置のエネルギー使用量を把握しています。

#### 2. 装置に含有される規制化学物質への取り組み

近年、部品や材料に含まれる化学物質の環境や生態系への影響懸念により、自動車や電気製品等への使用規制の動きが世界各国で活発になってきています。2006年7月発効の欧州RoHS\*1規制に対しては、当社製品の半導体製造装置はLarge-scale Stationary Industrial Toolに該当するため、適用除外と判断し、声明書を用意しました。また、2007年3月発行の中国版RoHS\*2に対しては、遺漏なく適合を達成しています。東京エレクトロングループでは規制を先取りし、製造部門の代表者で構成される化学物質対策チームを結成し、必要な情報を共有しています。また、取引先にも積極的にご協力いただき、含有物質の調査と非含有代替品への変更を推進しています。2007年3月期はRoHS指定6物質の製品からの全廃スケジュールを策定しました。

\*1 Restriction of the use of certain Hazardous Substances in Electrical and Electronic Equipment

\*2 中国版RoHSは俗称、正式名称は「中国電子情報製品汚染制御管理弁法」という

#### ISO14001取得会社・事業所

会社名	事業所名	認証取得年月日	認証番号
東京エレクトロンAT(株)/ 東京エレクトロンFE(株)	相模事業所	1997年12月10日	1110-1997-AE-KOB-RvA
東京エレクトロン東北(株)	東北事業所	1998年 2月19日	1118-1998-AE-KOB-RvA
東京エレクトロン九州(株)	熊本/合志/大津/佐賀事業所	1998年 3月26日	1120-1998-AE-KOB-RvA
東京エレクトロンAT(株)	山梨事業所(藤井/穂坂地区)	1998年 5月15日	1124-1998-AE-KOB-RvA
	宮城事業所	2005年 3月 1日	01245-2005-AE-KOB-RvA
東京エレクトロンデバイス(株)	横浜事業所	2004年 7月14日	EC04J0144

## 健康・安全への取り組み

東京エレクトロンでは、社員やお客さまの安全と健康優先、装置の安全性に配慮した設計など、企業活動のあらゆる側面で「健康と安全」を推進しています。「東京エレクトロングループの安全/健康に関する基本理念/方針」の中には、各種業務の遂行において安全や健康に対する配慮を常に念頭において行動する責務が従業員に課せられていることが明示されています。

前年度の経営層向けの安全研修に続いて、2007年3月期は、中間管理職向けの管理者安全研修を行いました。受講対象者は各部の部長、課長、グループリーダーなどで、事例実習のディスカッションの時間を含んだ内容となっています。また、現場作業リーダー向けのTRM(チーム・リソース・マネジメント)という教育手法も導入しました。この教育では、普段何気なく行っているコミュニケーションやチームワークが実は非常に重要で難しいものであることに気付いてもらうこと等を目的としています。

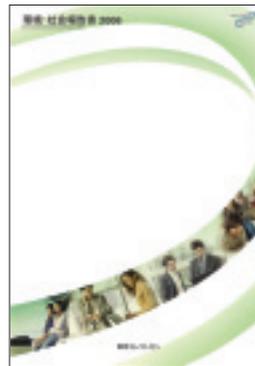
## ステークホルダーとのコミュニケーション

東京エレクトロングループは、ステークホルダーの皆さまとのコミュニケーションを積極的に推進しています。それは、環境・健康・安全への取り組みを進めるためには、事業活動に関

わる全ての皆さまとできる限り情報を共有し、コミュニケーションによってフィードバックを得る相互作用が不可欠と考えているからです。

その一つの例が地域への社会貢献です。「社会に対し、常に規律を守り、協力的でありたい」「社会の健全な発展のために協調することが我々の義務である」という考えに基づき、行政や地域社会との信頼関係を築きながら、国内はもちろん、海外においても様々な社会貢献活動を展開しています。

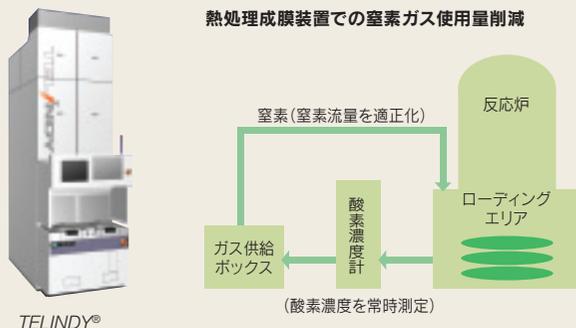
より詳しい活動内容については、「東京エレクトロン環境・社会報告書2007」(2007年9月発行予定)をご覧ください。  
<http://www.tel.com/jpn/environment/ehsreport.htm>



## TOPICS

### 熱処理成膜装置での窒素ガス使用量削減

熱処理成膜装置では、ローディングエリア(ウェーハを反応炉に入れる前のウェーハの積載エリア)でウェーハ上に自然酸化膜が生成しないよう、窒素を注入して酸素濃度を低くしています。従来の装置では、窒素の流量は一定でしたが、熱処理成膜装置TELINDY®では、ローディングエリアの酸素濃度を常時測定しながら制御することにより、窒素の流量をウェーハ加工の各段階で適正化しました。これにより、従来装置と比較して窒素の使用量を約60%削減できました。



### 東京エレクトロン九州(株)にて涵養植樹を実施

東京エレクトロン九州では、前年度に続き、2007年3月に阿蘇の依山で水源涵養林の植樹を行いました。この植樹活動は5年計画(植樹を3年、手入れを2年)で実施しており、今回で2回目です。今回も多くの社員・家族が参加しました。植樹の後はバーベキューを行い、子供たちにもっと環境について知ってもらおうと簡単なクイズラリーも実施しました。



植林の実施模様